

令和元年度 第2回燕市総合計画審議会 議事録

日 時	令和元年8月5日(月) 午後1時30分から3時30分
場 所	燕市役所 委員会室
欠 席	小田島委員、甲田委員、西川委員、廣川委員

1. 開会

(事務局)

委員の出席状況の報告と資料差し替えのお詫び

2. 協議題

(1) 地方創生交付金活用事業の効果検証について

<事務局より資料1の「燕三条ものづくりメッセ」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。特段なければ、K P I 達成に有効であったとしたいがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「次世代産業育成支援事業」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。K P I を見ると目標値を上回ったということなので、本委員会としてはK P I 達成に有効であったとしたいがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「燕市ものづくり品質管理制度(T S O)」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。認証事業所数は下がったが、よりグローバルなI S Oへの移行があること、K P I の「製造品出荷額等」は前年よりも下がったが目標値を上回っていることからすれば、K P I 達成に有効であったとしたいがいかがか。

(副会長)

・K P I の「認証事業所数」は、2020年の目標値で100社となっているが、現状で48社である。今ほどの説明では、現状のように事業所を入れ替えながら横ばいでも構わないという様に聞こえたが、

100社を目指すのかどうなのかを教えて欲しい。

(事務局)

- ▶ 結果的には事業所を入れ替えながら横ばいとなっているが、事業所数はKPIとして根幹となるため、100社は残り1年でどこまで増やすことができるのかということもあるが、増加を目指し、制度の有効性や効果をしっかりと事業所の皆さんにPRしていきたい。

(会長)

ほかにご意見、ご質問はないか。事務局の答弁からしても、有効であることが否定できないため、KPI達成に有効であったとしたいがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1.総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「つばめ創業支援事業」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。

(委員)

- ・具体的にどのような成果があったのか。

(事務局)

- ▶ KPIに記載のある通り、「補助金・利子補給を受けて創業した者の数」が昨年と比較して増えてきていること、「新規創業者数」については、個人開業届を提出した人の数だが、これも増えていることが成果であるにとらえている。

(会長)

ほかにご意見、ご質問はないか。KPIが増えていることから、有効であることが否定できないため、KPI達成に有効であったとしたいがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1.総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「農力アップ・コスト低減に向けたチャレンジ支援」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。KPIの「チャレンジファーマー支援事業申請数」は昨年よりも1件増えているが、弱い部分がある。今後の取組みで、農業者の意見を折込ながら、使いやすく改善しますとある。具体的にはどのような行動を考えているのか。

(事務局)

- ▶ 農業者にとって使いやすい制度にするということで、対象事業を拡大したり、若手枠を設定したりして補助率を手厚くするといった改善をしている。そういったことにより、今年度は申請件数が増えており、今後も期待できている。

(会長)

ご意見、ご質問はないか。K P Iは増えていることから、K P I達成に有効であったとしたいがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1.総合戦略のK P I達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「東京つばめいとをはじめとする学生・若手社会人等との交流促進」の説明>  
<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。K P Iの「インターンシップ利用者数」については、補助金の活用もあり伸びていることから、K P I達成に有効であったとしたいがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1.総合戦略のK P I達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「女性が輝くつばめプロジェクト」の説明>  
<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。K P Iの「女性創業者数」や「職場環境整備補助企業における新規女性雇用者数」が増えていることは望ましいことだが、「ハッピーパートナー企業に登録された数」については、増えているものの目標には遠い。目標達成に向けた今後の取組みについては、どのようなことを考えているのか。

(事務局)

- ▶ 県の担当者と連携して、市内事業所に対し説明、加入促進を行っている。今年度もそれを行うと同時に、ハッピーパートナーの制度自体も充実してきているため、P Rをしながら加入促進をしていきたい。

(会長)

ほかにご意見、ご質問はないか。K P Iは5社増えていること、今後も個別訪問などにより周知を図るとしているため、K P I達成に有効であったとしたいがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1.総合戦略のK P I達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「母子保健支援サポート事業」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。K P Iの数値としては「育児相談利用者の割合」は増加している。「特定不妊治療助成事業利用者の出生数」はなかなか目標達成が難しいものの、増えていることは確かであるため、K P I達成に有効であったとしたいがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1.総合戦略のK P I達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「子育て世帯生活支援事業」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。

(委員)

- ・支援センター出張サービスとは、具体的にどのようなことをするのか。

(事務局)

- ▶ 各保育園にて、子育ての悩みや育児の方法についての相談、保護者同士の交流を図ることにポイントを絞って実施した。

(委員)

・K P Iの評価と自己評価の説明を受けたが、16ページにある、そもそもの成果指標にある「出生数」については、2014年は600人であったのが2018年は493人となっている中で、このことに関する危機感を伺いたい。K P Iだけに着目するとそれなりに達成しており、自己評価は4段階中の①または②としている。これで良しとしているのか、またはこの先さらなる施策の考えはあるのか。

(会長)

・K P Iの「子育て支援に関する満足度（市民意識調査）」が下がっている。何か要因はあるのか。あるとすれば、市としてどのように分析しているのか。

(事務局)

- ▶ 人口減少に関する総体的な回答になるが、前回の第1回総合計画審議会にて市長が申したように、燕市にとって出生数の減少は燕市の1番の大きな課題であると考えている。個々の事業のK P I、成果は出ているが、それが肝心の出生数の増加には結びついていないことが問題である。今回評価をした上で、第2期の総合戦略では、子育て支援施策の充実をテーマに考えていきたい。

(事務局)

- ▶ 出生数が500人を切ったことの危機感については非常に持っている。市民意識調査の結果についても、向上、改善に向け取り組みを進めなければと考えている。現状、核家族化、女性の就業率の向上により、未満児保育のニーズが高まっている。育児休業後に職場復帰をされる方が非常に多く、そういった保護者のニーズに対応するため、受入れ枠の拡充を図るといった傾向が今後も

続くと考えられることから、このような取組みを進めていきたい。

(委員)

・私は、子ども・子育て会議の委員として出席している。子育て支援については、がんばっているけれども、結果がでていないというご指摘に対し、来年度どうするのかという内容だが、少子化が問題になったのが平成元年の1.57ショックである。その時の世の中では個人的な問題だという風潮が強かった。その後、個人的な問題ではなく、世の中全体に大きな影響を及ぼすということが分かり、対策を立てようとしたときには、すでに第3次ベビーブームはとうに過ぎていた。施策として、日本でも外国でも成功している例があるため、真摯に向き合って、何らかの実績を上げないと、未来に大きなツケを残すことになる。また、母親にとって、子どもを就園させる希望、自分が就労する希望があるが、もともとは2歳くらいまでは自分で育てたいという希望の方が多い。複雑な要因があることを認識したうえで、何とかしなければならないと考えている。

(事務局)

- ▶ 成果に繋がっていないというご指摘については、おっしゃる通り。今後、各施策を実施しても、現状の年代別人口構成では、子どもを産む世代が減っているため、増えていくことは難しいという中で、効果的な施策を展開していきたい。

(会長)

ほかにご意見、ご質問はないか。自己評価の①や②については、もう少し危機感を持ってもらいたいというご指摘であったが、今ほどの認識を持っていただいた上で、KPIは増えているものもあるため、何らかの効果はあったものとし、KPI達成に有効であったとしたいがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1.総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「産業観光の推進」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。KPIだけを見ると目標値を2桁も上回っているため、KPI達成に有効であったとしたいがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1.総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「インバウンド観光の推進」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。

(委員)

- ・台湾をターゲットにした理由はなにか。

(事務局)

- 親日であることで、日本全体に関心を持っていただけるので、東京などに来る場合が多いのだろうが、もう一度来るのであれば新潟にも来てもらえるのではないかと。また、新潟から直行便がある。親日プラス直行便で、誘客の可能性が高いと考えている。

(委員)

- 親日であればベトナムの方が強いのかと思っている。新潟市ではベトナムとの地方交流を行っている。ああいった団体が地元にあると、それと連携した中で、新潟市と燕市は隣なので、進めていけるのではと思う。

(事務局)

- K P Iの「外国人観光客入込数（燕三条地場産業振興センター）」が 3,355 人となっているが、その内訳は、韓国が最も多く、次いで台湾が 764 人、全体からの割合は 22.8%となっている。そういったことで、燕市としては数年前から台湾向けの産業観光 P Rを行っている。

(委員)

- ・外国人観光客が増えているといることだが、地場産センターに燕市の代表的な企業の展示を見に行かれて、その後、外国人はどういった行動をするのか。

(事務局)

- 市では把握していない。データを取っていく必要はあると思っている。個人なのか団体なのか、主には団体のようだが、ツアーのルートにのっているものと思っている。

(委員)

- 個人か団体かも分からないのか。ただ人数が増えているということなのか。だとすれば、いつまでに分かるのか。どここの国の方が、バス旅行で地場産によっていただいたとか、そういった内容ではないのか。

(事務局)

- 現在は精度が低い。レジでインタビューをしながら、どこから来たのかを把握しているため、今後はどのように把握したらいいのかを検討していきたい。

(委員)

- せっかく外国の方が来られるのであれば、地場産だけではなく、燕市は他にも道の駅などもあるのだし、そういう所までもっと来ていただけるようなルートにしてみたい。

(事務局)

- 27 ページの K P I で、「産業観光ナビゲーターやボランティアガイドが受け入れた企業・団体数」というものがあり、昨年は 87 団体を受け入れている。そのうち、外国人は 302 名が来られた。このように、企業の視察に来られるのは団体となっている。個人で来られる方もおられるので、今後はそういった統計も含めて、地場産センター、産業史料館ではデータを取っていききたい。地場産までお越しいただき、吉田や燕、分水の商店街にも誘導していただけるような施策も考えていかなければと思っている。

(会長)

ほかにご意見、ご質問はないか。K P I だけを見ると伸びているところもあるし、今後の取組みも踏まえて、K P I 達成に有効であったとしたいがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「燕三条工場の祭典」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。前回の工場の祭典では学生を連れて参加した。その際の一番のネックは、二次交通だった。シャトルバスの効果検証をするとあるが、今後どのような方法で検討するのか。

(事務局)

▶ 実行委員会で企画するのだが、点在する工場を宝探しのように、自分の足で探して行っていただくという考え方もある。パンフレット等で所在地を表示して、これ以上二次交通を充実させなくても良いのではというもの。一方で、県外などから来た方が燕三条駅に着いた後、どうしたらいいのか、もっと充実させるべきではといった考え方もある。大きく分けるとこの2つの議論になるのだが、今年度からパンフレットを有料化し、利用者の皆さんお声をアンケートで集めて、実行委員会としてどちらの方向にするのか議論していくことにしている。

(会長)

ほかにご意見、ご質問はないか。これも効果があったと認めることができるので、K P I 達成に有効であったとしたいがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「中越地域文化・観光振興事業」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。酒吞童子行列は、直近の開催で延べ7,000人とある。前回と比べて、増えているのか、減っているのか。

(事務局)

▶ 急激には伸びていないが、着実に伸びている状況。

(会長)

ほかにご意見、ご質問はないか。今のことを踏まえて、K P I 達成に有効であったとしたいがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

<事務局より資料1の「スポーツイベント誘致による交流人口の拡大」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。利用人数を見ると確実に増えているため、K P I 達成に有効であったとしたいがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

## (2) 燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略成果指標の達成状況について

<事務局より資料2の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。

(副会長)

・かなりの数の指標が目標値を上回っており、二重丸が多く、大変なご苦労だったと思っている。その中で、3 ページ、③人材育成、産地基盤技術の伝承「新規の技術修行者数（累計）」というのがあるが、4 年間ずっと0 人であり、今年度末も0 人である。目標値は3 人だが、こういった取組みをしているのか、なぜ0 人なのか、目標3 人どのように考えているのか。

(事務局)

▶ この計画の策定をしていた時に、産業レガシープロジェクトという、なくなりそうな技術をどうにかしていこうと議論していた。喫緊になくなりそうな技術として、キセル、やすり、彫金の3 つについて、若い方から修業してもらい、技術者となってもらう取組みである。キセルは若い方が県外から来て修行していたが、結果としてお辞めになり、どの技術も外から来た若い方の担い手ができなかった。

(副会長)

▶ どのような募集方法なのか。待つだけなのか、積極的に公募しているのか。

(事務局)

▶ 市として募集はしていないが、3 つの技術以外にナイフの製造技術も少なくなっており、そういったところに関しては、技術者を育てるために、日本金属洋食器工業組合が中心になって担い手を育てる研修を行っており、市として支援している。

(副会長)

▶ 計画期間が終了して、今後はどうする予定か。今後はやめる考えか。

(事務局)

▶ なくなつては困る技術が燕にはいくつかあるが、1 つの要因ではなく、いろいろな要因があつて後を継ぐ方がいない場合が多い。基盤技術をどのように残していくかということは大きな課題であるので、今のところ具体的な案はないがしっかりと検討していきたい。



(委員)

・5ページ、②結婚・子育て応援のKPI、「出会い応援団の数」が50団体も60団体もあることに驚いた。「出会いサポート事業を通じたカップル成立率」の実績が50%、達成率は100%となっている。参加した方の半数がカップル成立となると、とんでもない高い数字だと思う。あちこちの市町村で問題となっているのは、その場だけカップルになって、その後、金銭のトラブルになった話を知っている。市として、カップル成立後や、結婚した数字は把握しているのか。

(事務局)

▶ 出会いサポートイベントは、平成27年度から実施している。市の主催で、年に2・3回実施しているが、カップル成立率は40~60%となっている。その後については、電話等で「その後どうですか」といった感じで、カップルになった方の後追いをしている。今現在、7組が成婚している。金銭のトラブルについては、事務局に報告は来っていない。今後もカップルの後追いは続けていく。

(委員)

▶ 後追いは非常に良いことだし、必要なことだと思う。カップル成立については、50%に対し成婚が7組ということだが、カップル成立は何組になるのか。イベントは何人くらい参加するものなのか。

(事務局)

▶ イベントによって異なるが、今年度については、男女18人ずつ参加し、カップル成立が45%だった。昨年度の夏のイベントでは、男女20人ずつ参加し、カップル成立が12組で60%となっている。

(委員)

▶ 参加者の住所地はどうなっているのか。地域限定か。

(事務局)

▶ 地域限定はしておらず、燕市限定ではない。応募は新潟の方もいるし、もちろん燕市の方もいる。定員を超える申し込みがあるが、抽選で選んでいるため、燕市民だけにはならない。

(委員)

▶ 人口の関係の事業の1つだが、兎角よくあるのは、行政主体の婚活パーティーでは、男性が地元、女性が市外で募集している。燕市の婚活パーティーは、住所地がどこでも参加できるということか。

(事務局)

▶ 限定はしていないので、そういうことになる。実施にあたっては、市役所職員だけではなく、商工会議所や農協などから委員を募り、企画・運営をしている。そこにアドバイザーとして結婚相談事業所に委託をし、イベントを企画している。住所地を限定すると、同じ方が何度も応募してきたりだとか、そういったことがあるという情報があったため、実行委員会で検討し、男性を燕市在住限定とせずに実施している。ただ、募集をかけると、燕市内の方が多という状況。

(会長)

・人口減少問題についてだが、「まち・ひと・しごと」について、「まち」と「しごと」については、個別のKPIを含めて、基本目標は達成している。「ひと」について、人口減少は厳しい数値になってい

る。人口減少問題に対応する場合、燕市としてはどうしようもない大きな波ととらえるか、もしくは燕市として対策がとれるのではないかと考えるか、大きくこの2つに分けられるのではないか。例えば東京一極集中については、全国的な問題だが、日本社会における大きな趨勢であり、燕市としては外部環境によるもの。一方で、燕が持っている要因で対処できるものがあるとしたら内部環境になる。外部要因と内部要因という見方をした場合、燕市として人口減少に対応する策としては、誰をターゲットに、どのような対策を打とうとしているのか、基本的な考え方はあるのか。

(事務局)

- ▶ 人口が減るということについては、燕市の力ではどうにもならない。そこでもう諦めてしまうのではなく、少なくとも個々の人口減少対策、特に子育て支援施策に関してはそれぞれ確実に成果が出ているので、更に効果を上げる方法はないのかということの検討をしている。人口減少は日本全国どこでも同じなので、いろんな政策をたくさん打つよりは、人口減少に応じた地域づくり、まちづくり行っていきたい。昨年、建物系公共施設保有量適正化計画を策定したが、人口減少に応じた保有数を考えていこうというもの。減らないための施策も打つが、減ったことを覚悟したまちづくりもしていかなければならないと認識している。

(会長)

ほかにご意見、ご質問はないか。

- ▶ なし

### (3) 第2期燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の骨子について

<事務局より資料3の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。「ひと」が今回の中心だが、転入数の増を目指すということについて、日本国内からの転入を増やすという風を感じた。外国からの転入を増やすという考えはあるのか。

(事務局)

- ▶ 観光客などのインバウンドについては、外国人の増加を目指す事業を以前から行っている。労働力、産業界の人手不足については、専門的な技術をもった外国人について今後考えていく必要がある。一般的な移住については具体的な施策の検討の想定は今のところしていない。

(副会長)

・5ページ、「まち」に「ホストシティ」とある。外部の方をお招きする取組みのようだが、燕市に住んでいる方による、住んでいる地域を良くするという「まち」の捉え方はあるのか。ほかの計画で、立地適正化計画や空き家対策の計画は、地域の課題解決を目的としている。総合戦略では「まち」をどのような視点で捉えているのか。

(事務局)

- ▶ 5年前に策定した第1期の総合戦略をベースに骨子を作成した。当時、東京オリパラを意識して「ホストシティ」としたため、今後、表現の仕方を検討していく。「まち」「ひと」では、燕に住

んで良かった、暮らしやすいまち、という観点で定住施策を考えていきたい。

(副会長)

- ▶ 地域の拠点という考え方がある。いろいろな地域が残っていくには、拠点を強化するという取組みも考えられるので、そういう視点も検討いただきたい。

(委員)

・人口減少については、人口流出を防ぐということと、よそから引っ張ってくるという位置づけの中で、引っ張られた自治体の人口は減る。人の奪い合いという構図は求めているまいだろう。税金を使って無理をして人を増やす施策よりは、人口が減る中で、無駄をなくし、より良く、心地よく、幸せに暮らしていけるまちづくりがあってもいいのでは。社会教育施設使用料見直し検討委員会では、あまりにも施設がありすぎるということで、どこの施設を減らすのかという議論もあったが、話が大きくなりすぎるので、今回は料金の事だけにするという展開になった。人口を増やそうという意思表示がたくさんあるが、出生率が減る中で、人口を増やすにはよそから引っ張ってくることになり、それはいかななものかと思う。

(事務局)

- ▶ 基本的には燕市の転出超過の要因となっている若者の東京一極集中をなんとかしよう、ということが施策の中心である。人口減少社会に対応したまちづくりは当然必要だが、総合戦略については地方創生という主眼があるので、そのことを中心に計画の内容を考えるもの。総合計画では全体を考えた中で、人口減少社会における在り方を広く捉えていく必要があるものと考えている。

(会長)

ほかにご意見、ご質問はないか。

- ▶ なし

#### (4) 第2次燕市総合計画の中間評価・見直し方針について

<事務局より資料4の説明>

<質疑応答>

(会長)

・委員の皆様から、ご意見、ご質問はないか。

- ▶ なし

### 3. その他

(会長)

・委員の皆様から、本日全体の会議について質疑、ご意見はないか。

- ▶ なし

(会長)

- ・事務局からは何かないか。

(事務局)

- ▶ 今後の予定だが、今回の審議内容のうち、「地方創生交付金活用事業の効果検証」については、9月議会で市議会に報告するとともに、国にも報告させていただく。そのほかの次期総合戦略や総合計画の中間評価・見直しについては、次回審議会に向けて具体化を進め、皆様のご意見を反映させながら、12月議会で市議会に報告させていただく。次回の審議会は、11月中旬ころを予定している。開催の1か月前までにご案内させていただく。

#### 4. 閉会

以上